



鶏

Keigankou

玩考



東京大学総合研究博物館
コレクション
スクールモバイル
ミュージアム



人類はニワトリを愛してやまない。
時代を問わず、文化を問わず、年を問わず。
その情熱は多彩な品種を創生し、
生彩な翫藝を創造する。

展示指揮：工藤光平・遠藤秀紀



2021年

11/8_[月]

2022年

3/19_[土]

入場
無料

9:00 ~ 17:00 (12/29 ~ 1/3、日・祝日を除く)

文京区教育センター2階

大学連携事業室

場所：文京区湯島4丁目7番10号
TEL：03-5800-2591

※新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、開催日時等を変更または中止とする場合があります。

鶏玩考

ニワトリには人を惹きつけてやまない何かがある。東南アジアに生息するセキショクヤケイに魅せられた人々は、それを捕獲し家畜化した。やがて、羽や体型、鳴声や性格を選抜することに夢中となり、気がつけば世界各地で300を超える品種が愛育されるに至った。その執念とも言えるニワトリへの思いは決して生物ニワトリの中だけに完結しない。自ら生み出した品種をモチーフに、ニワトリへの念望を無生物へと昇華させる。翫藝のニワトリである。そうして創造された生彩な翫具・藝術品もまた、普遍的に愛されていく。今回はニワトリを象る鮮やかで精巧な工芸品からユーモラスなおもちゃまで、その題材となった品種とともに展示した。無粋な言葉など必要としないほどの熱量が、この空間に詰まっている。視界を埋め尽くす膨大な翫藝に、ニワトリへの愛に、きっと圧倒されるはずだ。



ギャラリートーク

工藤 光平
(東京大学総合研究博物館)

2021/12/4(土) 「神聖視に始まる日本鶏」
14:00-15:00

2022/1/29(土) 「闘鶏から観賞用鶏へ」
14:00-15:00

2022/2/26(土) 「卵・肉食と外国鶏人気」
14:00-15:00

2022/3/19(土) 「日本鶏の文化的意義の再考」
14:00-15:00

会場：教育センター 2階研修室
対象：どなたでも
定員：20名(抽選)
費用：無料

申込方法：希望するギャラリートークごとに申込が必要です。文京区HP「電子申請」または往復はがきによりお申し込みください。申込方法等の詳細は左記QRコードでご確認ください。



- 東京メトロ千代田線
湯島駅(1番出口)から徒歩8分
- 東京メトロ丸の内線
本郷三丁目駅(2番出口)から徒歩10分
- 都営地下鉄大江戸線
本郷三丁目(5番出口)から徒歩8分
- 都営バス
湯島四丁目から徒歩5分
池之端一丁目から徒歩8分



※新型コロナウイルス対策について

- ① 開催日時等が変更・中止となる場合があります。
- ② 状況により、会場内の人数制限を行う場合があります。
- ③ ご来場の際はマスクの着用をお願いします。